

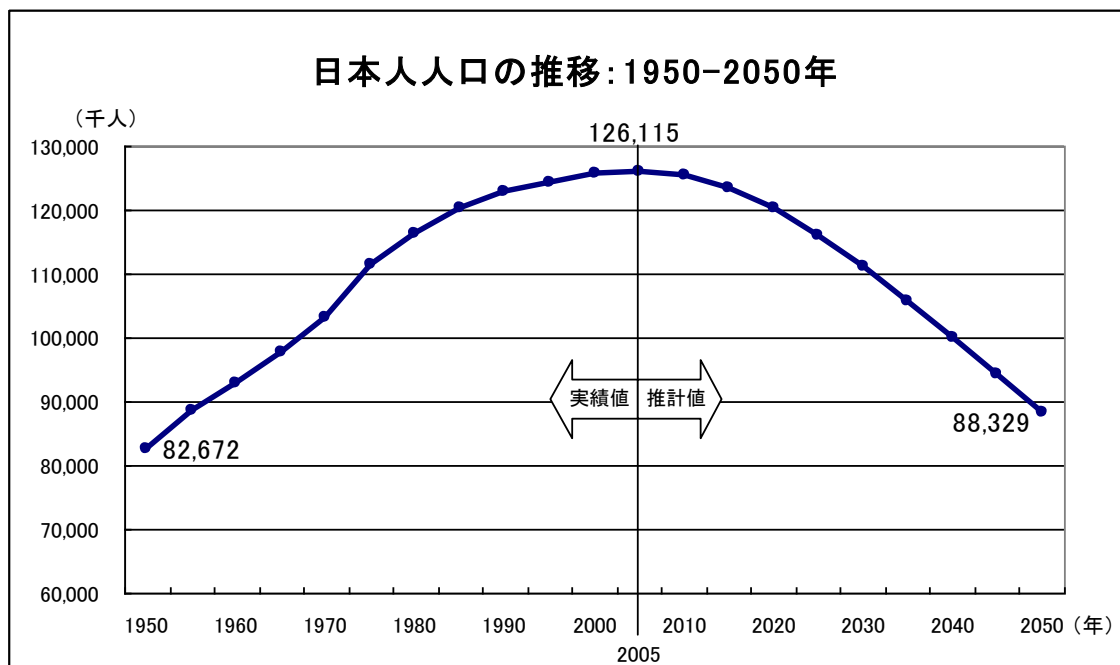
エイジング総合研究センター

日本人人口の将来推計

高齢化の最先進国として予測されていた現象ではあるが、2005 年現在、日本人人口は減少に転じようとしており、日本社会の将来動向を推量する新しい日本人人口の将来推計が求められている。

高齢化社会の研究と啓発活動を目的に 1985 年設立したエイジング総合研究センターは、高齢化の要因となる長寿化や少子化に関わる人々の意識・行動について調査研究を行なってきた。日本人人口の転換期に鑑み、当センターは、これまでの考察を基に日本人人口の将来推計を行なった。

なお、この推計では、過去約半世紀の死亡・余命の推移、また出生については、1970 年代以降の結婚や出産・育児に関する意識・行動の推移が、今後大きく変化しないと仮定して計算している。



- ・ 日本人人口は 2005 年（年央人口）で 1 億 2,612 万人であったが、2050 年には 8,833 万人に減少する。

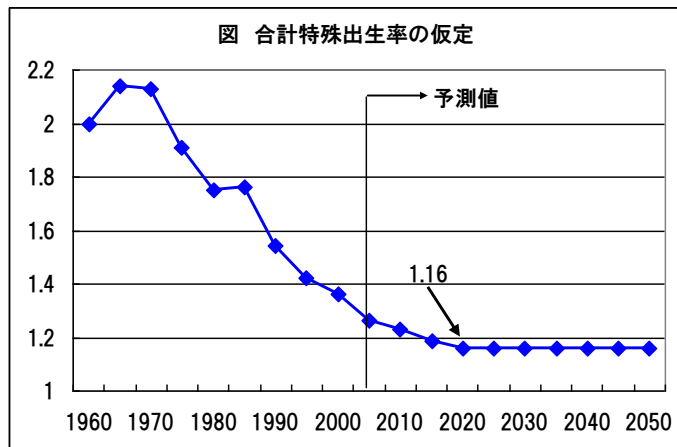
1. 仮定について

●推計のポイント

- ・今回の推計は、日本人人口を対象としている。
- ・推計の基礎となる将来の出生率（合計特殊出生率）と平均寿命などを独自の方法で仮定した（コホート要因法）。
- ・出生率の仮定についてはトレンドを考慮し、また平均寿命等の仮定については最良生命表を作成した。
- ・推計期間は、2005年7月1日（年央）の日本人人口 126,115 千人を基点とし、2050年までとした。
- ・推計する対象は男女・年齢5歳階級別の人口である。

●出生率の仮定

- ・今回の推計では、1970年代以降の出生率低下の要因となっている晩婚化と子どもを持つことのコスト（機会費用）を基に、出生率の決定要因のトレンドが継続するとして計算している。
- ・2020-2025年の合計特殊出生率は1.16まで低下すると仮定した。



●平均寿命の仮定

- ・平均寿命や死亡率の仮定については、都道府県別にみた最良生命表を作成し、これを全国に適用した。
- ・最良生命表とは、年齢ごとに生存率が高い理想的なデータを集めて作成した生命表である。
- ・2020 - 2025年の平均寿命は男性が79.8歳、女性が87.6歳である。

2. 主要結果

表1 日本人人口の将来推計（年齢5歳階級別）

(1,000人単位)

年齢階級	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
年齢計	126,115	125,498	123,493	120,230	115,982	111,082	105,735	100,053	94,149	88,329
0-4	5,612	5,078	4,471	3,907	3,529	3,298	3,106	2,874	2,590	2,306
5-9	5,851	5,607	5,073	4,467	3,904	3,527	3,296	3,104	2,872	2,588
10-14	5,986	5,849	5,605	5,071	4,466	3,902	3,526	3,295	3,103	2,871
15-19	6,552	5,981	5,844	5,600	5,067	4,462	3,899	3,523	3,293	3,101
20-24	7,390	6,540	5,970	5,834	5,591	5,059	4,455	3,894	3,518	3,288
25-29	8,332	7,374	6,526	5,958	5,823	5,581	5,050	4,448	3,887	3,512
30-34	9,623	8,310	7,355	6,511	5,945	5,810	5,568	5,039	4,438	3,879
35-39	8,583	9,589	8,282	7,332	6,491	5,927	5,793	5,553	5,025	4,426
40-44	7,882	8,539	9,543	8,245	7,300	6,463	5,902	5,769	5,530	5,005
45-49	7,671	7,821	8,477	9,477	8,188	7,250	6,420	5,864	5,732	5,495
50-54	8,833	7,575	7,728	8,381	9,369	8,095	7,170	6,350	5,801	5,672
55-59	10,013	8,659	7,433	7,589	8,234	9,206	7,956	7,049	6,245	5,707
60-64	8,482	9,730	8,419	7,236	7,394	8,028	8,980	7,763	6,881	6,098
65-69	7,356	8,119	9,330	8,075	6,950	7,112	7,730	8,650	7,482	6,636
70-74	6,553	6,857	7,586	8,750	7,575	6,536	6,702	7,298	8,171	7,069
75-79	5,183	5,846	6,143	6,827	7,918	6,857	5,937	6,110	6,665	7,465
80-84	3,348	4,265	4,840	5,116	5,713	6,692	5,789	5,044	5,215	5,706
85+	2,868	3,761	4,867	5,854	6,526	7,276	8,456	8,427	7,701	7,505

注:7月1日(年央)の日本人人口

表2 日本人人口の将来推計(年齢3区分別)

		人 口				割 合		
		総 数	0~14歳	15~64歳	65歳以上	0~14歳	15~64歳	65歳以上
		(1,000人)				(%)		
平成 17	2005年	126,115	17,449	83,359	25,308	13.8	66.1	20.1
22	2010年	125,498	16,533	80,117	28,847	13.2	63.8	23.0
27	2015年	123,493	15,149	75,578	32,766	12.3	61.2	26.5
32	2020年	120,230	13,445	72,163	34,622	11.2	60.0	28.8
37	2025年	115,982	11,898	69,402	34,682	10.3	59.8	29.9
42	2030年	111,082	10,727	65,882	34,473	9.7	59.3	31.0
47	2035年	105,735	9,928	61,194	34,613	9.4	57.9	32.7
52	2040年	100,053	9,273	55,251	35,529	9.3	55.2	35.5
57	2045年	94,149	8,565	50,351	35,234	9.1	53.5	37.4
62	2050年	88,329	7,765	46,182	34,381	8.8	52.3	38.9

注:7月1日(年央)の日本人人口

- ・生産年齢人口（15～64歳）は、2005年の8,336万人から2050年の**4,618万人**まで**44.6%の減少**である。
- ・年少人口（0～14歳）は、2005年の1,745万人から2050年の**777万人**まで**55.5%の減少**である。
- ・老年人口（65歳以上）は、2005年の2,531万人から、2050年の**3,438万人**まで**35.8%の増加**である。
- ・老年人口割合は、2005年の20.1%から2050年の**38.9%**まで**18.8ポイント**上昇している。

表3 日本人人口の将来推計(人口指数)

		人 口				従属人口 指数	年少人口 指数	老年人口 指数	老年化 指数	
		総 数	0~14歳	15~64歳	65歳以上					
		(1,000人)				(%)				
平成 17	2005年	126,115	17,449	83,359	25,308	51.3	20.9	30.4	145.0	
	22	2010年	125,498	16,533	80,117	28,847	56.6	20.6	36.0	174.5
	27	2015年	123,493	15,149	75,578	32,766	63.4	20.0	43.4	216.3
	32	2020年	120,230	13,445	72,163	34,622	66.6	18.6	48.0	257.5
	37	2025年	115,982	11,898	69,402	34,682	67.1	17.1	50.0	291.5
	42	2030年	111,082	10,727	65,882	34,473	68.6	16.3	52.3	321.4
	47	2035年	105,735	9,928	61,194	34,613	72.8	16.2	56.6	348.7
	52	2040年	100,053	9,273	55,251	35,529	81.1	16.8	64.3	383.2
	57	2045年	94,149	8,565	50,351	35,234	87.0	17.0	70.0	411.4
	62	2050年	88,329	7,765	46,182	34,381	91.3	16.8	74.4	442.8

注：7月1日（年央）の日本人人口

従属人口指数=年少人口指数+老年人口指数

年少人口指数= (0~14歳人口) / (15~64歳人口) × 100

老年人口指数= (65歳以上人口) / (15~64歳人口) × 100

老年化指数= (65歳以上人口) / (0~14歳人口) × 100

図1 日本人人口の将来推計(年齢構造)

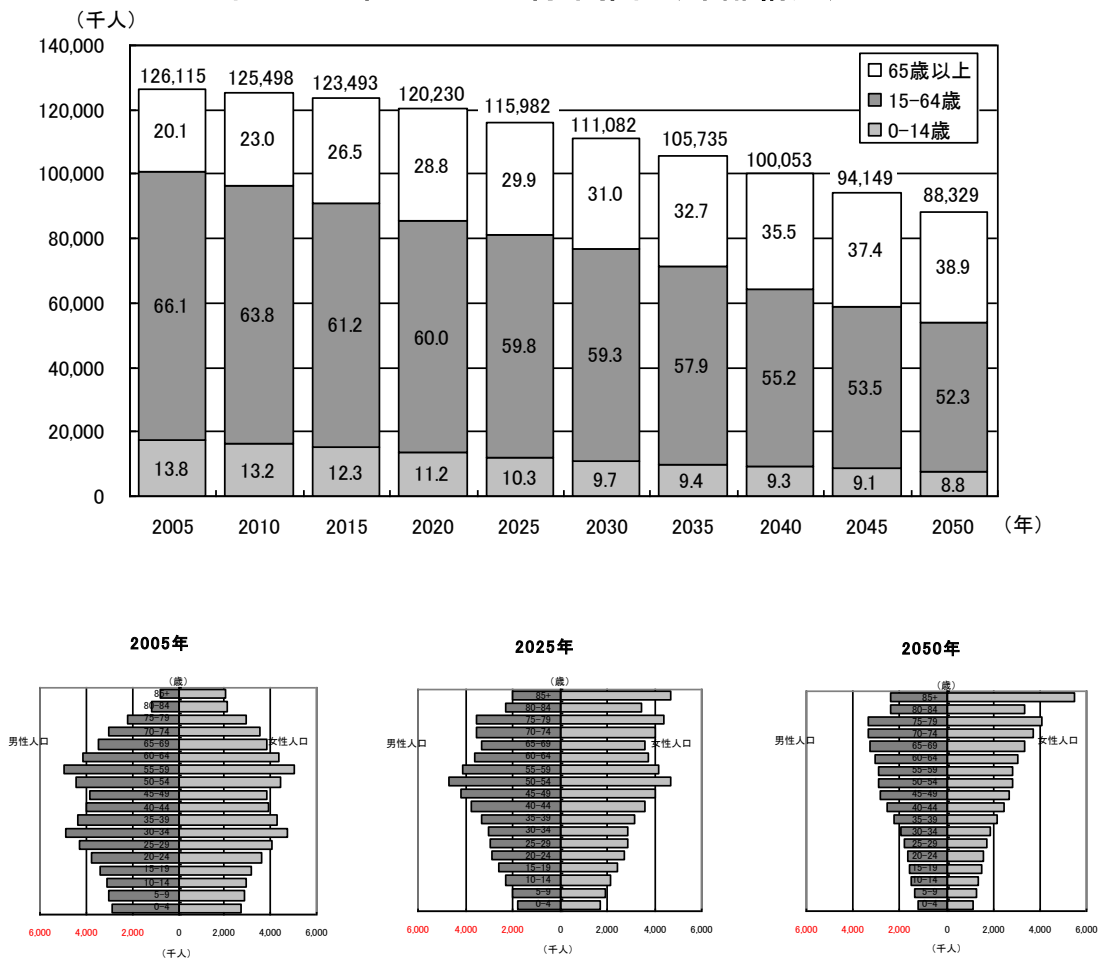
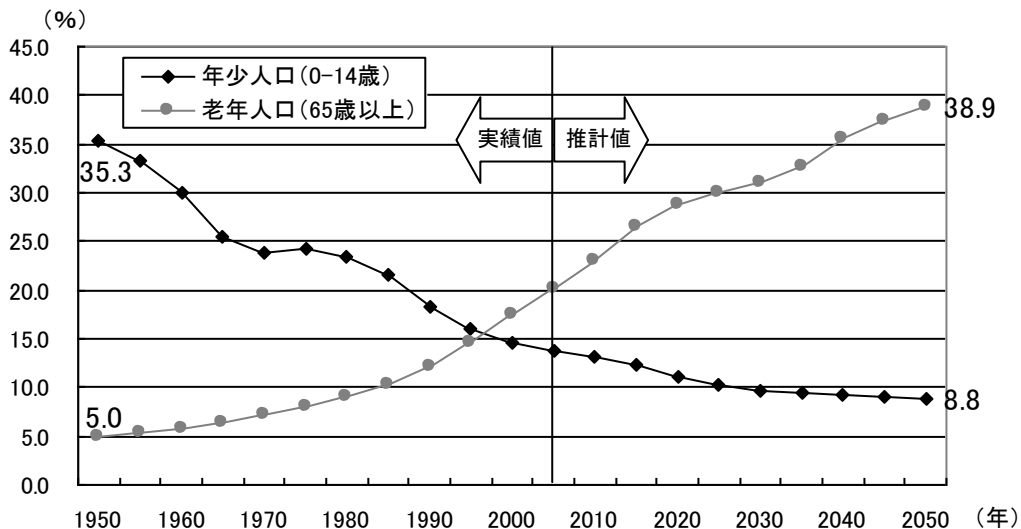
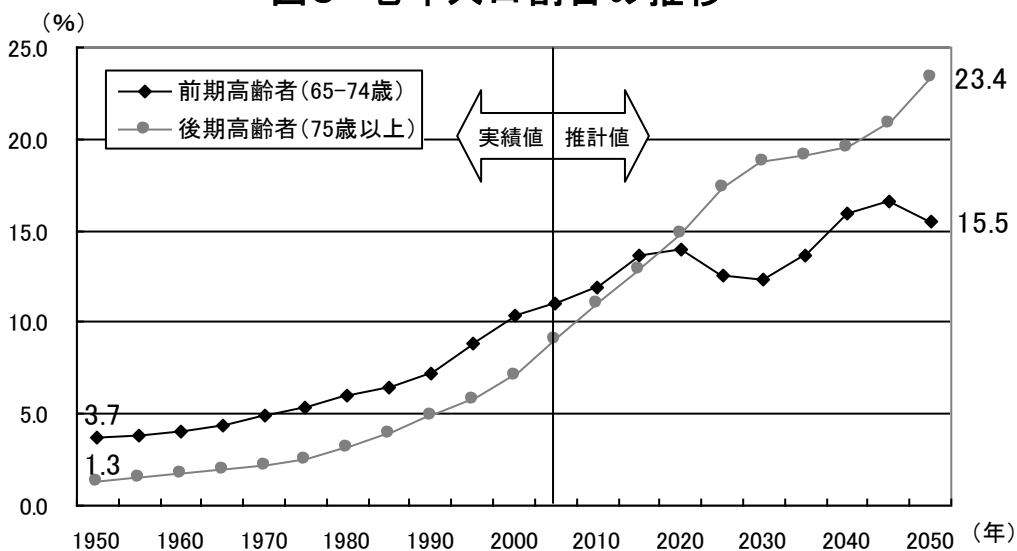


図2 年少人口割合と老年人口割合の推移



- ・ 老年人口は上昇しつづけ、2050年には 38.9%まで上昇する。
- ・ 年少人口は、2050年には 8.8%まで低下する。

図3 老年人口割合の推移



- ・ 前期高齢者と後期高齢者の割合は、2015年以降前期高齢者の増加率が低下し、2050年には後期高齢者の割合が 23.4%となり、日本人人口のおよそ 4分の1を占める。

「日本人人口の将来推計」について

人口推計については、人口問題に関心を持つ様々な研究機関が試みるべきであると考えております。

エイジング総合研究センターは、2005年現在が日本人人口の大きな転換期と考え、関係各位の要請とご支援によって、「日本人人口の将来推計」を行い発表することとしました。

エイジング総合研究センターは、人口推計の基礎的状況把握である人々の寿命伸長への行動努力や結婚・出産に関する意識・行動の調査研究だけでなく、自治体との人口推計研究会を催すなど、その手法も専門家も擁しています。

今回の推計は、既述のように、これまでの出生、死亡・余命の推移に大きな変化がないものと仮定して計算した、極めてシンプルなものです。従って、今後の社会状況変化によって受けるであろう影響も見え易いと言えるでしょう。いろいろとご活用いただければ幸いです。

なお、この推計を行うにあたっては推計委員会の各位に多大なご尽力をいただきました。ここに謝意を表する次第です。

・アドバイザー

下河辺 淳 (エイジング総合研究センター顧問)

嵯峨座晴夫 (エイジング総合研究センター理事)

・委員

鬼頭 宏 (上智大学経済学部教授)

加藤 久和 (明治大学政治経済学部助教授)

渡辺 吉利 (エイジング総合研究センター主任研究員)

吉田 成良 (エイジング総合研究センター常任理事)

2006年2月

(社) エイジング総合研究センター
理事長 高木 文雄

製作：社団法人 エイジング総合研究センター

〒104-0045 中央区築地 2-15-14 築地安田ビル 8F

TEL 03-3542-0360 FAX 03-3542-0362

E-mail info@jarc.net

URL <http://www.jarc.net>

日本人人口の将来推計：参考メモ

●人口減少の規模

2005年の1億2,612万人が、2050年には8,833万人に減少する。この45年間の減少数は、およそ3,779万人となる。

①2000年の都道府県別人口から

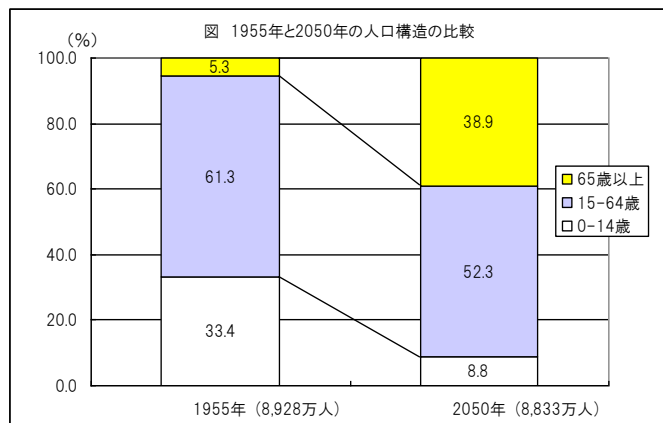
東京都（1,206万人）、千葉県（593万人）、埼玉県（694万人）、神奈川県（849万人）、茨城県（299万人）及び山梨県（89万人）であるので、これら1都5県に相当する人口が減少することになる。

②世界人口のランキングから

国連が2002年に発表した将来人口によれば、2000年時点では日本の人口は1億2,693万人で第9位であった。2050年に8,833万人になると、世界人口のランキングは第20位にまで後退する。

●年齢構造の比較

2050年の日本人人口は8,833万人であり、これは1955年の総人口8,928万人とほぼ同じ水準である。すなわち、1955年から50年かけて増加した人口を、今後45年で減少させることでもある。ただし、年齢構造は大きく異なる。65歳以上人口の比率が、1955年では5.3%であったものが、2050年では38.9%にまで高まる、など両者の違いに注目する必要がある。



●諸外国の動向

自然減を記録した国々

近年、諸外国においても自然減を記録した国々（出生数よりも死亡数が多い国々）が目立っている。ロシア、ブルガリア、ハンガリーといった東欧諸国の他、ドイツ（出生率と死亡率の差は $\Delta 1.0\%$ （2001年））、イタリア（同 $\Delta 0.4\%$ （2002年））、スウェーデン（同 $\Delta 0.2\%$ （2001年））などでも自然減を記録している。